

# 大空 —放哉だより—

第59号 2016.7.5 発行:小豆島尾崎放哉記念館



## 第2図書係補佐 著者:又吉直樹



昨年、芥川賞を受賞されたお笑い芸人ピース・又吉直樹さんの著書です。この本は、又吉さんご自身が読書家であり、その中から数々の作品を紹介しています。決して、批評・解説をしているわけではありません。又吉さんの生活の一部となっている本、皆さんがその本に興味を持ってもらえれば、との思いで紹介されています。そして、その中ではなんとー!!《尾崎放哉全句集》が取り上げられています!! 又吉さんは作家だけでなく、放哉さんと同じ自由俳人として、句集も出版されています。1冊の中でたくさんのお本に出会えます。もうすぐ夏休み!ぜひ読んでみてください。貸出は出来ませんが記念館に置いてありますので、この機会に記念館にもお越し下さい。

又吉さんは、2000冊以上!!の本を持っているそうです(◎o◎)!



6月19日(日)、お茶会開催。皆さんは『梅雨』と言えば、何が思い浮かびますか?雨は勿論のこと、いたる所で紫陽花を目にしませんか?白、青、紫や赤に変化し、不安定なお天気を和ませてくれます。その紫陽花がお茶菓子になっていて、ジメジメとした空気がパツと明るく感じられた1日でした。



### 日本海新聞より(2016年6月17日、19日付)



#### 対談 書家・柴山抱海氏×早稲田大学教授・東直子氏

東京都内で開かれた個展『放哉を書く』を記念して、放哉友の会(鳥取県)会長の柴山さんと歌人・小説家の東さんが、放哉句の魅力について語り合いました。東さんは「自由律俳句は書の表現に合っています。ふっと口をついて出たつぶやきに近ような抽象的なもの。抽象的だからこそのいろんな形に変えられる、いろんなところに入っていける余地があります。」柴山さんは「抽象的になればなるほど、凝縮されるのではないかと思います。そういうものであれば、また広がっていく力も大きい。縮められるからこそ、広められるのではないのでしょうか。」と語っています。そして揮毫する事については「放哉の句は象徴化された意味があり、凝縮した要素があり、これは現代の書として残していくべきものだと思います。」「書道人、ぜひ頑張ってくださいね。」と締めくくられています。

7月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8月						
日	月	火	水	木	金	土
		2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

※今月のお茶会は中岡佐智子先生です。

八月二十日(大正十四年)は、放哉さんが南郷庵に入庵した日です。その日を記念して十九日から図書館で展示を行います。是非ご覧ください。